

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

## 目 次

〈理事会報告 (2023 年 7 月 7 日)〉

■ 審議事項

- I 総会議事
- II 第 34 回大会について
- III 各種委員会の 2022 年度活動報告について
- IV 次期大会開催校 (筑波大学) について
- V その他

■ 報告事項

- VI 事務局報告

〈新理事会報告 (2023 年 7 月 8 日)〉

〈総会報告 (2023 年 7 月 9 日)〉

〈臨時理事会報告 (2023 年 8 月 20 日)〉

■ 審議事項

- I 各種委員会の活動方針について
- II 学会顧問の委嘱、常任理事の選任について
- III その他

■ 報告事項

〈「秋のセミナー2023」オンライン開催のお知らせ (第一次案内)〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

---

## 理事会報告（2023年7月7日）

---

---

定例理事会が7月7日（金）16時00分から18時00分まで、大阪教育大学天王寺キャンパス西館教職大学院第4講義室で開催された。事務局3名を含む20名（うち理事17名）の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会に関する挨拶、および、大会開催に係る準備等に対する御礼が述べられた。続いて、第34回大会実行委員会委員長の木原理事より、大会開催に係る挨拶ならびに協力に対する御礼が述べられた。

### ■審議事項

#### I 総会議事

二宮事務局長より、資料に基づき、総会議事の内容についての説明があった。

まず、新理事25名の確認がなされるとともに、代表理事については、「得票数第一位」の方からの就任辞退があったため、2023年7月8日に開催される新理事会での協議に諮ることとなったことが報告された。

また、今回の理事選挙よりオンライン投票を導入したことに伴い、「日本カリキュラム学会 役員選出規程」の第2条2にある「選挙による理事の選出は、全会員の無記名郵便投票による」という記述から「郵便」を削除し、「選挙による理事の選出は、全会員の無記名投票による」という記述に変更することが提案され、承認された。

次に、「第34回大会年度（2023年度）予算案（2023年4月1日～2024年3月31日）」について、「収入の部」における「第34回大会収入」については決算報告（11月頃の予定）後に正式な金額が確定すること、そのため、総会資料では見込額での記載となっていることが確認された。また、「支出の部」について、琉球大学 Web 大会以降、事前に振り込むかたちではなく大会後に精算を行うかたちになってきたこと、また、大会校の通帳を作成することが困難になってきていることなどをふまえ、「大会補助金」の項目を削除したことが報告された。さらに、「紀要刊行費」について、第32号分も2023年度に支払いが行われることをふまえて、2023年度予算において「第32号」「第33号」の両方の刊行費を計上するかたちとなったこと、それに伴って予算額が従来の70万円（1号分）の倍の140万円となっていることが説明された。その他の項目についても、予算額の積算根拠が説明された。説明内容に関する確認等が行われた後、内容について承認された。

資料に記載されている「2022年度決算報告・監査報告」において、会計監査を行った日付の間違いが指摘され、修正されることとなった。

「支出の部」における「紀要刊行費」について、「第32号」に関して計上されている予算

額の使途に関する質問が出された。本件に関しては明確ではない点があったため、その場では事務局より、調査のうえで報告する旨が回答された。理事会後の調査の結果、J-STAGE掲載料であることが判明し、2023年7月9日に開催された総会において報告がなされた。

大会補助費について、精算払いのかたちをとることに伴い、使用可能な費目と使用不可能な費目の目安を決めておく方が分かりやすいのではないかという提案がなされた。本件について、基本的に過去の事例で支出された費目は基本的に支出可能であること、事前におおまかな支出費目を理事会に諮り、その内容に沿って進めていくかたちが基本となること、判断に迷う場合には事前に事務局に確認をすることなどが確認された。

決算報告書の「収入の部」にある「前年度繰越金」に転記ミスがあることが指摘された。本件については、修正のうえで総会にて配布することとなった

## II 第34回大会について

木原理事（第34回大会実行委員会委員長）より、資料に基づき、「日程」「受付方法」「参加予定人数」「自由研究発表数」「大会専用ページの注意点など大会参加にあたっての注意事項」「次年度以降の大会への検討・留意事項（一部）」に関する報告があった。

参加予定人数について、7月7日時点で270名程度の事前申し込みがなされていること、参加費の支払いについても事前に行われていることから当日の現金の授受を行うことが必要となるケースの数は少なく済みそうであることなどが報告された。また、自由研究発表について、7月7日時点で1名の発表辞退者があることが報告された。

## III 各種委員会の2022年度活動報告

### 1. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、報告があった。

『カリキュラム研究』第32号について、予定通りに刊行や発送、J-STAGEへの公開が完了したことが報告されるとともに、協力への御礼が述べられた。次号については理事会および編集委員会の体制が新しくなるが、速やかに準備を進めていただけることを期待していること、引き継ぎ等については全面的に協力するつもりであることが述べられた。

### 2. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、2023年度の「海外カリキュラム研究情報」については、倉本副委員長の尽力により、米国のキャサリン・ルイス（Catherine Lewis）氏に快諾いただけたことが報告された。

次に、2024年度学会年次大会における課題研究については次期国際交流委員会に任せる

かたちとなることが確認された。

また、国際交流委員会の主要な任務として「学会年次大会課題研究（1 枠）の企画・運営」「海外カリキュラム研究情報の執筆者選定・依頼、原稿提出・翻訳等（編集委員会との連絡含む）」の 2 つがあること、および、それぞれの任務に関する引き継ぎ事項の内容が報告された。

最後に、他国の研究者に執筆依頼を行う際の依頼状のひな形（英文）が紹介された。あわせて、このひな形を事務局においても保管しておき、必要に応じて引き継ぎ等の際に活用することが提案され、提案の通りに進められることとなった。

### 3. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき報告があった。

第 34 回大阪教育大学大会の「課題研究Ⅲ」について、登壇予定者の 1 名が体調不良で入院されたため当日登壇できなくなったこと、準備された資料をもとに委員会から代理で簡単な発表を行うことが報告された。あわせて、登壇キャンセルについては会員に向けてメール配信を行い、事前に周知することとなった。

次年度の第 35 回大会の課題研究について、例年通り 2 本の企画を研究委員会で進めることになると思われること、および、その詳細については次期研究委員会において検討されることが確認された。

2022 年度春の研究集会について、資料に基づき、報告があった。加えて、今後につながる充実した内容であったことが報告された。

### 4. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、年次大会における課題研究については、2018 年度（第 29 回）大会以降の内容（広報・若手育成委員会担当分）の一覧が示されるとともに、次年度の第 35 回大会以降の課題研究については白紙であり、次期体制に委ねたいことが報告された。

また、引き継ぎ事項の 1 つとして、非公開の若手育成関連企画含め、中期的な対応や交渉を要する取り組みがあることから、次期体制においては副委員長を 2 名（今期は正副委員長の各 1 名体制）にして業務を分担することが提案された。

### 5. 学会賞委員会

小柳委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、研究奨励賞ならびに優秀発表賞について、規程や実際の運用方法などについての整

備を行いながら進めることができたことが確認されるとともに、それに対する協力への御礼が述べられた。

次に、2023年度の優秀発表賞審査の進め方が確認されるとともに、今大会における「優秀発表賞における第一段投票」への協力依頼がなされた。この優秀発表賞については、発表時点での発表要旨ならびに発表資料が審査資料となることから、発表後に発表者によってどのように研究が進められるのか、どのようなかたちで論文等の原稿となるのかについては分からないという性質のものであることが指摘され、賞の性格が再確認された。

また、優秀発表賞あるいは研究奨励賞における第一段投票における利益相反関係への対応案の内容が紹介された。

#### IV 次期大会開催校（筑波大学）について

唐木理事より、2024年7月6日（土）・7日（日）に筑波キャンパスにて開催する予定であること、および、場所についてはすでに確保済みであることが報告された。あわせて、樋口直宏会員を委員長、唐木理事を事務局長とし、学内の他の会員との協力のもとに進める予定であること、懇親会についても学食を会場として開催予定であることが報告された。

また、課題研究の分担については従来通りのかたちで進めること、その内容については年内に見通しを立て、来年3月までには決定するかたちで進められる予定であることが確認された。冷房費や会場使用費として、今年度の規模を念頭に置けば50万円程度は見込む必要があることが確認された。

#### V その他

##### 1. 強制退会者の再入会について

二宮事務局長より、資料に基づき、強制退会者の再入会に関する提案があった。具体的には、今年度、以前に強制退会者となった元会員から入会の申請があったこと、事務局と代表理事にて検討した結果、強制退会者の再入会については、下記のような手続きにもとづき、再入会を認めることとしたいことが提案された。

- ・会費未納額が記録として残っている強制退会者の再入会については、未納額の会費を全納した上で、入会金と初年度の会費を支払い、再入会を認める。
- ・会費未納額が不明な強制退会者の再入会について、2010年以前に強制退会となった元会員は、2011年度までの会費額である6000円を滞納期間である4年分全納した上で、入会金と初年度の会費を支払い、再入会を認める。

審議の結果、提案の通りに進めることとなった。加えて、未納分の納入は、「強制退会者という位置づけを解除するために求める」ものであることを明記することの必要性、およ

び、再入会の際に納入を求める未納額分の会費に対応する紀要については送付を行わないという点を明記することの必要性が提案され、承認された。

## 2. 選挙管理委員会報告

「総会議事」についての審議の際に報告が行われた。

### ■ 報告事項

#### VI 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況概要」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

新規入会者について、学部学生の入会や大会での発表の可否について確認することの必要性が提案された。審議の結果、まず、入会済みの会員についてはその属性に関わらず発表は認めるという点が確認された。あわせて、今後の新規入会希望者については、理事会で入会可否についての審議を経ることの必要性が確認された。

---

---

## 新理事会報告（2023年7月8日）

---

---

新理事会が7月8日（土）12時00分から13時00分、および17時30分から18時00分まで、大阪教育大学天王寺キャンパス西館教職大学院第4講義室で開催された。

新理事25名および選挙管理委員長の参加があった。

代表理事選挙の得票者第一位の理事より就任辞退の事前回答があったことから、「日本カリキュラム学会 代表理事選挙に関する申し合わせ」の「5. 当選人から次期代表理事の承諾を得られない場合、次期代表理事は選挙による新理事の協議によって決定する。なお、選挙管理委員会は協議の場に対し選挙過程の報告を行う。」にしたがい、新理事会で代表理事選出について協議した。

協議の結果、新理事による投票を再度実施することになった。その結果を踏まえつつ、さらに議論を重ねた結果、松下前代表理事から新代表理事就任の承諾が得られ、これを理事会で承認した。

---

## 総会報告（2023年7月9日）

---

日本カリキュラム学会総会が、第34回大阪教育大学大会の2日目（2023年7月9日）の12時45分から13時20分まで、木原俊行理事（第34回大会校／大阪教育大学）と唐木清志理事（次回第35回大会校／筑波大学）を議長団として、開催された。

総会では、開会の辞、代表理事挨拶、大会校挨拶、議長団選出の後、「第34回大会総会議事次第」に基づき、第33回大会年度（2022年度）活動報告、2022年度決算報告・監査報告、および理事選挙・代表理事選挙の結果について報告があった。会計監査の緩利会員から、「繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みの必要性」が意見として提起された。引き続いて、第34回大会年度（2023年度）活動方針案の説明と提案が行われた。会員からの意見や異議は出されず、すべての審議事項について承認された。

議長団解任の後、第35回大会（2024年度）の大会実行委員長である筑波大学の樋口直宏会員より、次期大会の準備・運営に対する抱負が述べられた。さらに、日程については、2024年7月6日（土）・7日（日）に筑波キャンパスにて開催する予定であることが報告された。

総会終了後には、研究奨励賞および優秀発表賞授与式が執り行われた。小柳和喜雄理事（学会賞委員長）より、研究奨励賞受賞者である石田智敬会員（「スタンダード準拠評価論の成立と新たな展開：ロイス・サドラーの所論に焦点を合わせて」『カリキュラム研究』(30), 15-28, 2021年）、および優秀発表賞受賞者である岡村亮佑会員（「E.W.アイズナーによるカリキュラム開発論の検討：「教育的想像力」概念に着目して」第33回大会自由研究発表）、園部友里恵会員（「意味のないこと」が教師に促す省察—隠れたカリキュラムへの着目とインプロ（即興演劇）を通した学び—」第33回大会自由研究発表）の紹介、ならびに、その選考過程と受賞理由が説明された後、松下佳代代表理事より受賞に対する祝辞と審査にあたった理事各位への御礼が述べられた。そして、受賞した3名の会員より、受賞対象となった研究の内容、研究の経緯、関係者への御礼、今後の研究に向けた抱負と決意が述べられた。

※このニューズレターの8～14ページに、当日配布資料を掲載。

## 第 34 回大会総会 議事次第

2023 年 7 月 9 日（日） 12:45－13:20

大阪教育大学天王寺キャンパス西館ホール 107

### 1. 開会の辞・大会校挨拶

#### [議長団選出]

### 2. 第 33 回大会年度（2022 年度）活動報告について

#### （1）一般活動報告

##### ①現況概要（2023 年 7 月 3 日時点）

会員数や会費納入状況は以下の通りである。

・会員総数 699 名（一般会員 616 名、学生会員 77 名、団体会員 6 名）

※未納退会希望者・会員資格一時停止者 35 名を含む。

（2022 年度：706 名、2021 年度：712 名、2020 年度：714 名）

・会費納入率（2023 年 7 月 3 日時点）

2022 年度：完納 602 名 未納 30 名 計 632 名 95.2%（切り捨て）

※連絡先不明者 4 名含む、会員資格一時停止者 35 名除く。

##### ②第 33 回大会報告

日本カリキュラム学会第 33 回大会（開催校：名古屋大学）は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大防止の観点から Zoom を活用したオンライン形式で、2022 年 7 月 9 日（土）・10 日（日）の日程で開催した。自由研究発表には、43 件の発表申込があり、2 日間で 12 分科会が実施された。参加者数は 263 名、会報第 90 号にて大会報告を掲載。

##### ③学会誌『カリキュラム研究』第 32 号発行

##### ④会報第 89・90・91 号発行

2022 年 10 月 24 日に 89 号、2023 年 2 月 7 日に 90 号、2023 年 5 月 8 日に 91 号を発行した。

##### ⑤優秀発表賞及び研究奨励賞選考結果

###### ・奨励賞

石田智敬会員

「スタンダード準拠評価論の成立と新たな展開：ロイス・サドラーの所論に焦点を合わせて」『カリキュラム研究』(30), 15-28, 2021 年

###### ・優秀発表賞

岡村亮佑会員

「E.W.アイズナーによるカリキュラム開発論の検討：「教育的想像力」概念に着目して」第 33 回大会自由研究発表

園部友里恵会員

「「意味のないこと」が教師に促す省察—隠れたカリキュラムへの着目とインプロ（即興演劇）を通じた学び—」第 33 回大会自由研究発表

\*総会終了後、授与式を行います



## ⑥会員勧誘の結果（2022年度内）

新入会員 29名（参考：昨年度 44名、一昨年度 26名）

## ⑦秋のセミナー2022の開催

日時：2022年11月23日（水・祝） 13時30分～16時30分

開催方法：オンライン開催（Zoom）

テーマ：「教員免許更新制の『その後』と教師の学びを考える」

報告者：岩田康之（東京学芸大学教授）「教師の主体的な学びをどう創るか」

樫原哲哉（文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員免許企画室長）「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方」

佐野壽則（教職員支援機構審議役）「教職員支援機構(NITS)と教委等の協働による新たな研修の開発について」

指定討論者：菊地栄治（早稲田大学教授）

コーディネーター・司会：石井英真（京都大学）、富士原紀絵（お茶の水女子大学）

## ⑧第13回研究集会の開催

日時：2023年3月5日（日）13時30分～16時00分

開催方法・場所：ハイフレックス（広島大学教育部第3・4会議室／Zoom）

テーマ：<性の多様性>を教育課程にどう位置づけるか

報告者：社会学（ジェンダー・セクシュアリティ）の研究の成果から

眞野豊（鳴門教育大学）「<性の多様性>を教育課程にどう位置づけるか」  
教科教育に関する研究の成果から

川口広美（広島大学）、岩田昌太郎（広島大学）、村田一朗（大垣市立北中学校）、白石愛（福山市立鷹取中学校）、小栗優貴（愛知教育大学）「<性の多様性>についてどのように授業実践していったか：社会科と保健体育科の共同開発研究を通して」

コーディネーター・司会：草原和博（広島大学）、木原俊行（大阪教育大学）、橋本美保（東京学芸大学）

## ⑨若手育成セミナーの開催

2023年2月23日に30周年記念本の読書会を開催。

## ⑩学会運営の業務委託先の変更と業務のICT化

2023年度から学会運営の業務委託先を国際文献社からガリレオに変更することを決定し、そのための準備を行なった。委託先の変更により、理事選挙および代表理事選挙へのオンライン投票の導入やオンラインでの入会申込、会費のクレジット決済などのICT化を行なった。

## ⑪その他

## (2) 2022 年度決算報告・監査報告

【総会資料 1】

2023 年 5 月 16 日に会計監査を行なった。2022 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第 33 回大会、秋のセミナーがオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したとの報告があった。また、2023 年度からの業務委託先の変更に伴い、2023 年 5 月頃に予定される紀要刊行費用の予算や理事・代表理事選挙の経費、業務委託先の変更費用については、2023 年度の予算にて支出することが報告された。2022 年度予算会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったが、繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みの必要性が提起された。

## 3. 新体制について

【総会資料 2】

- ①理事選挙結果報告
- ②代表理事選挙結果報告

## 4. 第 34 回大会年度（2023 年度）活動方針案について

### (1) 一般方針

- ①年次大会（第 34 回大会）の実施：大阪教育大学を開催校として開催
- ②第 35 回大会（2024 年度）の準備：筑波大学にて開催予定
- ③学会誌『カリキュラム研究』第 33 号発行
- ④優秀発表賞及び研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2023 の開催
- ⑥第 14 回研究集会の開催
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨オンライン投稿システムの導入
- ⑩その他

### (2) 2023 年度予算案

【総会資料 3】

総会資料 3 の通り、予算案を作成した。ただし、理事の改選に伴い、委員会の構成や予算の見直しが行われる可能性がある。

## 5. 役員選出規程の改正について

【総会資料 4】

2023 年度からの業務委託先の変更に伴い、理事選挙・代表理事選挙をオンライン投票にて実施することが可能となったため、役員選出規程の改正を提案する。

・役員選出規程 2 条の 2 「選挙による理事の選出は、全会員の無記名郵便投票による。」 → 「選挙による理事の選出は、全会員の無記名投票による。」

## 6. 閉会の辞・代表理事挨拶

## 【総会資料1】

日本カリキュラム学会  
 第33回大会年度（2022年度）決算報告書  
 （2022年4月1日～2023年3月31日）

### 収入の部



| 項目              | 予算額（円）     | 実績（円）      |
|-----------------|------------|------------|
| 学会年会費           | 5,000,000  | 5,126,000  |
| 入会金             | 80,000     | 56,000     |
| 学会誌代・雑収入・利子等    | 50,000     | 33,034     |
| 第33回大会収入(除く補助費) | 700,000    | 890,000    |
| 寄付              | 0          | 0          |
| 前年度繰越金          | 10,142,247 | 10,142,247 |
| 合計              | 15,972,247 | 16,247,281 |

### 支出の部

| 項目               | 予算額（円）     | 実績（円）      |
|------------------|------------|------------|
| 第33回大会補助費        | 0          | 0          |
| 第33回大会支出(除く補助費)  | 2,100,000  | 1,806,577  |
| 第32号紀要刊行費(含む発送費) | 700,000    | 35,200     |
| 学会研究奨励賞費         | 50,000     | 50,000     |
| 会合費（交通費他）        | 1,300,000  | 0          |
| 事務局経費            | 150,000    | 80,792     |
| 事務局外部委託費         | 1,600,000  | 1,718,163  |
| ホームページ委託運用費      | 250,000    | 141,900    |
| 財）日本学術協力財団賛助会費   | 50,000     | 50,000     |
| 教育関連学会連絡協議会会費    | 10,000     | 10,000     |
| 各種委員会経費          |            |            |
| 紀要編集委員会          | 100,000    | 45,458     |
| 国際交流委員会          | 100,000    | 0          |
| 研究委員会            | 300,000    | 99,675     |
| 広報・若手育成委員会       | 300,000    | 66,822     |
| 学会賞委員会           | 100,000    | 0          |
| (小計)             | 900,000    | 211,955    |
| 理事・代表選挙経費        | 300,000    | 0          |
| 学会業務のICT化のための経費  | 1,500,000  | 0          |
| 予備費              | 200,000    | 0          |
| 次年度繰越金           | 6,862,247  | 12,142,694 |
| 合計               | 15,972,247 | 16,247,281 |

本簿について監査しました。

2023年 5 月 24 日

上野 正道   
 後利 誠 

## 【総会資料2】

### 選挙管理委員会報告

2023（令和5）年7月8日  
委員長 竹川 慎哉

#### 1. 理事選挙結果

「日本カリキュラム学会 役員選出規定」に従い、理事選挙を実施した。理事選挙に関する書類を4月10日付で発送し（5月19日締切\*）、595名中159名の投票があった（投票率26.7%、有効投票数159）。

第3回選挙管理委員会（5月23日）において開票を行い、得票数上位者25名、次点6名に対し、理事選挙当選通知を送った結果、以下25名の会員から理事就任の承諾を得た。

|       |      |       |      |       |      |
|-------|------|-------|------|-------|------|
| 石井英真  | 磯田文雄 | 上地完治  | 奥村好美 | 小柳和喜雄 | 唐木清志 |
| 川地亜弥子 | 木原俊行 | 金馬国晴  | 草原和博 | 倉本哲男  | 子安 潤 |
| 澤田 稔  | 柴田好章 | 田村知子  | 中野和光 | 西岡加名恵 | 二宮衆一 |
| 根津朋実  | 藤本和久 | 富士原紀絵 | 松下佳代 | 村川雅弘  | 森 久佳 |
| 吉田成章  |      |       |      |       |      |

(50音順)

#### 2. 代表理事選挙結果

「日本カリキュラム学会 代表理事選挙に関する申し合わせ」に従い、代表理事選挙を実施した。代表理事選挙に関する案内を6月15日付で送信し（6月22日締切）、新理事25名中25名の投票があった（投票率100%、有効投票数25）。

第4回選挙管理委員会（6月26日）において開票を行い、「得票数第一位」の者を当選人として選出したが、本人からは代表理事就任辞退の返答を得た。よって、申し合わせの「5. 当選人から次期代表理事の承諾を得られない場合、次期代表理事は選挙による新理事の協議によって決定する。なお、選挙管理委員会は協議の場に対し選挙過程の報告を行う。」にしたがい、新理事会での協議に諮ることとなった。

#### 3. 新理事会での協議結果

新理事会（2023年7月8日）での協議の結果、以下の理事を代表理事当選人として選出した。また、本人からも代表理事就任の承諾を得た。

代表理事 松下 佳代

【総会資料3】

第34回大会年度(2023年度)予算案(2023年4月1日～2024年3月31日)

収入の部

| 項目           | 予算額(円)     | 備考                 |
|--------------|------------|--------------------|
| 学会年会費        | 5,000,000  | 過去2年分の実績にもとづく      |
| 入会金          | 60,000     | 30名見込み(過去2年の実績による) |
| 学会誌代・雑収入・利子等 | 50,000     |                    |
| 第34回大会収入     | 900,000    |                    |
| 寄付           | 0          |                    |
| 前年度繰越金       | 12,142,694 |                    |
| 合計           | 18,152,694 |                    |

支出の部

| 項目                   | 予算額(円)     | 備考   |
|----------------------|------------|--|
| 第34回大会支出             | 2,000,000  | 大会校の予算案にもとづく   |
| 第32号・33号紀要刊行費(含む発送費) | 1,400,000  | 2022年度の紀要刊行費を含む  |
| 学会賞費(奨励賞および優秀発表賞)    | 70,000     | 優秀発表賞も加わったため   |
| 会合費(交通費他)            | 1,300,000  | 通常通り、定例理事会を開催できると見込んでの計上。<br>秋以降の理事会がZoomによる開催となる場合、減額となる。 |
| 事務局経費                | 150,000    |  |
| 事務局外部委託費             | 1,600,000  | 委託先「ガリレオ」  |
| 財)日本学術協力財団賛助会費       | 50,000     | 執行済  |
| 教育関連学会連絡協議会会費        | 10,000     | 執行済  |
| 各種委員会経費              |            |  |
| 紀要編集委員会              | 100,000    |  |
| 国際交流委員会              | 100,000    |  |
| 研究委員会                | 300,000    |  |
| 広報・若手育成委員会           | 300,000    |  |
| 学会賞委員会               | 100,000    |  |
| (小計)                 | 900,000    |  |
| 理事・代表理事選挙経費          | 410,000    | ガリレオの概算にもとづく   |
| 学会業務の委託先変更に伴う初期費用    | 600,000    |  |
| 電子投稿システムの導入経費        | 350,000    |  |
| 予備費                  | 200,000    |  |
| 次年度繰越金               | 9,112,694  |  |
| 合計                   | 18,152,694 |  |

## 【総会資料4】

### 修正案

## 日本カリキュラム学会 役員選出規程

1992年7月12日総会決定

2007年7月8日総会改正

2020年9月8日総会改正

2023年7月9日総会改正

第1条(目的) 本規程は日本カリキュラム学会会則第11条及び第13条に基づき、本学会役員を会員中より選出する方法を定めることを目的とする。

第2条(理事の選出) 理事は、会員の選挙による理事並びに当選理事の推薦による理事とする。

- 2 選挙による理事の選出は、全会員の無記名郵便投票による。
- 3 選挙権、被選挙権は会員たることを資格条件とする。ただし、前年度までの会費未納者はその資格を失う。
- 4 投票は全国区のみとし、15名連記とする。ただし、15名以下の不完全連記は有効とし、15名を超える連記の票は全員無効とする。
- 5 当選は、総得票順とする。
- 6 得票数が同点となった場合は、選挙管理委員会の実施する抽籤により当選者を決定する。
- 7 当選理事の推薦による理事は、地域ないし専門分野の偏り等を正すために選出される。
- 8 理事に欠員の生じたときは、次点者をもって補い、その任期は前任者の残りの期間とする。

第3条(理事の定員) 理事の定員は、日本カリキュラム学会会則第10条に定めるところによる。

第4条(理事の公表) 理事の選出結果については当該年度総会で承認を受けた後、全会員に通知する。

第5条(選挙管理委員会) 第2条に規定する選挙を執行するため、理事会は会員中より選挙管理委員会の委員3名を指名する。

- 2 選挙管理委員会は互選により委員長を決定する。

第6条(監査の選出) 監査は、理事会の発議により総会で選出する。

第7条(細目の委任) 本学会の役員選出に関する細目は、理事会の定めるところによる。

### 附則

- 1 本規程の改正は、総会の決議による。
- 2 本規程は、制定の日(1992年7月12日)から施行する。
- 3 本規程は、改正の日(2007年7月8日)から施行する。
- 4 第1条および第3条を2020年9月8日改正。本規程は、改正の日から施行する。
- 5 第2条を2023年7月9日改正。本規程は、改正の日から施行する。

---

---

## 臨時理事会報告（2023年8月20日）

---

---

### 【資料1】

審議に先立ち、松下代表理事より、新たな理事会体制が定まるタイミングで3年に1度行われる臨時理事会の開会の宣言と、代表理事着任（継続して3期目）の挨拶、所信表明が行われた。

### 【資料2】

松下代表理事に続き、本臨時理事会に参加している理事、事務局より自己紹介と挨拶が行われた。

## ■審議事項

### I 各種委員会の活動方針について

#### 1. 紀要編集委員会

澤田委員長より、資料に基づき、取り組みの報告と提案があった。

投稿・査読システムのオンライン化が今年度より始まることに関連して、8月9日にガリレオ社と一部委員の間で課題整理等の打ち合わせを行った。投稿システムは問題なし、査読システムについては、より厳密な査読を行うという観点から、本臨時理事会での議論を受けて、具体を今後、委員会内で検討することが確認された。

#### 2. 国際交流委員会

倉本委員長より、資料に基づき、取り組みについての報告があった。

国際交流委員会では、引き続き、学会年次大会研究（1枠）の企画・運営および海外カリキュラム執筆者選定・依頼、原稿提出・翻訳等を行う。学会年次大会課題研究については「プラグマティズムの再評価（案）」、海外カリキュラム研究については9月頃に次回候補者を提案・検討予定。また、新たなプロジェクトとして、学会内の人脈も活かして国内外の関係学会との連携・共同研究を行うことを検討している。広く理事からの意見も求めたいとの協力依頼がなされた。

#### 3. 広報・若手育成委員会

唐木委員長より、資料に基づき、取り組みについての報告があった。

広報・若手育成委員会では、引き続き、「秋のセミナー（11月）」、「若手育成企画（2～3月）」、「全国大会：課題研究」を担当する。

まず、「秋のセミナー」について、11月23日（木・祝）午後、オンライン形式で実施するとの提案がなされた。

次に、「全国大会：課題研究」においては、過去数年にわたって「カリキュラムの『不易と流行』を語る」という企画を進めてきており、これを継続する予定であることが報告された。

また、「若手育成企画」については、若手会員のネットワーク構築等に十分つながっていないという報告があった。委員会より、「若手会員を集めてセミナー等を開催する」か「若手会員の自主的な取り組みをサポートする」という方法が提起されるなかで、他の理事より、若手同士で大学を超えた交流につながっている例が見られる一方で、「秋のセミナー」との差別化が不明瞭になってきているのではないかとの指摘があり、議論が行われた。両者の違いについては、対象（非会員も参加可能か会員限定か）、目的（社会貢献か研究の深化・交流か）といった違いがあるなどの議論がなされたが、結論には至らず、最後に、松下代表理事より、各取り組みの位置づけについては委員会で再度検討してもらいたいとの要請がなされた。

#### 4. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、取り組みについての報告があった。

研究委員会では、引き続き、春の研究集会の企画・実施（実施形態を含めて検討）、大会における課題研究（2件）の企画・実施を担当する。春の研究集会は研究委員会が設定し、理事会の日程に重ねる必要はないことが確認された。

#### 5. 学会賞委員会

磯田委員長より、資料に基づき、取り組みについての報告があった。

まず、前委員会からの引継ぎが行われていることと、7月発表内容についての優秀発表賞の審査に着手することが報告された。

また、議論において、優秀発表賞の選定にあたっては、学会資料の一式をばらばらに各自ダウンロードするのではなく、zip ファイル等でまとめて各理事に送付してほしいとの要望があり、学会賞委員会で対応することが確認された。

## II 学会顧問の委嘱、常任理事の選任について

安彦忠彦顧問の退会に伴い、田中統治、水原克敏の両氏に引き続き顧問を依頼することが承認された。加えて、代表理事経験者として新たに長尾彰夫氏にも依頼することが承認された。（※理事会後、長尾氏、田中氏、水原氏に依頼し、ご承諾いただいた）



また、松下代表理事より、常任理事会の構成（案）について、各委員長のみとしたのは、人数を絞って機動力を高めるためであるとの説明がなされた。また、事務局長を入れるべきだとの指摘があり、竹川事務局長を加えた常任理事会の構成員修正案が承認された。

### Ⅲ その他

竹川事務局長より、学会ホームページの改善予定についての報告がなされた。（国際文献社が管理しているときにはあった）会員検索機能を追加予定。詳細情報を検索できる機能についてはアクセス可能な者を限定するなどの配慮を行う。

また、竹川事務局長より、今年度大会における課題研究およびシンポジウムの各コーディネーターに対して発表資料のホームページ掲載の承認を9月中に行ってもらいたいとの依頼がなされた。掲載にあたって、修正があればコーディネーターで取りまとめること。ただし、アーカイブとしての性質上、内容の大きな修正ではなく、誤字・脱字や画像の削除などの修正に留めるべきであることが確認された。

## 【臨時理事会 資料 1】

### 代表理事挨拶

このたび、本学会の代表理事を拝命しました松下佳代です。これで図らずも、3期9年間、代表理事を務めることとなります。本学会の会則では、「代表理事は70歳を定年」とするとのみ書かれ、再任についての規定がありませんが、これまで3期務められたのは、学会創成期の故柴田義松先生のみでした。私も再任までという気持ちでおりましたが、新理事会での議論の結果、3期目を務めさせていただくことになりました。

6年前に初めて代表理事に選んでいただいた際、私は挨拶の中で「本学会の活動を今まで以上に、知的にスリリングで豊かなものにすべく努力したい」と記しました。

また、3年前の2020年という年は、コロナ禍による学校・大学の休校措置がとられる中で、私たちカリキュラムを研究し実践する者の役割が大きく問われた年でした。そのときの挨拶では、上記の目標を引き続き掲げるとともに、新たなチャレンジとして3つのことを挙げました。「カリキュラム研究を土台とした柔軟なカリキュラム運用の提案・発信」「若手育成・支援、とくに研究奨励賞の選考の見直し」「学会活動におけるICTの活用の推進」です。

2番目、3番目のチャレンジについては、担当理事・事務局の献身的な活動、会員のみなさまのご協力により、大きく前進したと考えております。

学会賞委員会が新たに設置され、その下で、研究奨励賞と優秀発表賞という2つの賞が整備されました。研究奨励賞についてはしばらく受賞者なしが続いていたのですが、この間2年続けて受賞者が生まれ、優秀発表賞についても昨年度初めて選考されました。また、広報・若手育成委員会の下で、若手育成セミナーが連続開催され、大学の壁を越えたネットワークが創られつつあります。

また、事務局業務の外注先を国際文献社からガリレオに移行したことで、スムーズな「オンライン投票」が実現されました。さらに、『カリキュラム研究』第33号(2024年3月刊行予定)からは「オンライン投稿」もできるようにすべく、準備を進めてくださっていた前期の紀要編集委員会から今期の委員会へ引き継ぎが行われています。

一方、「本学会の活動を知的にスリリングで豊かなものにする」という目標に直接つながる1番目のチャレンジについては、まだ道半ばという印象です。3年前にはコロナ禍であったこともあり、「柔軟なカリキュラム運用」を挙げましたが、大きくは、カリキュラムの研究と実践と政策をどうつな

ぐか、という本学会の中核に関わるチャレンジです。このチャレンジは、2 番目、3 番目と違って、到達点が見えにくく、ずっと追求していくべき課題ともいえます。

過去 3 年間に、大会課題研究では、カリキュラムの編成原理、教育内容論、資質・能力論、カリキュラム・マネジメント、教師教育、大学院教育、SDGs、ダイバーシティ、インクルーシブ教育、道徳教育、市民性教育、平和教育といったテーマを取り上げてきました。また、広報・若手育成委員会主催の「秋のセミナー」では、評価活動、カリキュラム・オーバーロード、教員免許更新制、研究委員会主催の春の「研究集会」では、GIGA スクール構想、協働的な学習、性の多様性といった、テーマが議論の俎上に載せられてきました。どれも重要なテーマですが、実践や政策につながりつつも、カリキュラム研究ならではのアプローチをいかに行っていくか、さらに掘り下げていく必要があります。その際、なるべく固定メンバーにならないようにし、若手・中堅の会員や(必要なら)学会外の専門家にも登壇していただき、新しい風を取り入れながら、「知的にスリリングで豊かな活動」を展開していければと思います。22 年度の大会では国際交流委員会のご尽力で英語による課題研究が開催されましたが、こうした海外との交流も「知的にスリリングで豊かな活動」には不可欠です。

一方、この 3 年間、会員数が微減傾向にあるのは少し気になるところです。2020 年度は 714 名だったのが、2022 年度は 699 名と 700 名を割り込んでしまいました。会員数減少は他の学会にも見られる傾向です。大学教員・大学院生だけでなく、初等・中等教育の教員、教育行政や政策立案の担当者、その他カリキュラム研究・実践・政策に関心をもつ方々に、会員の裾野を広げることが求められます。と同時に、それがカリキュラム研究の質を下げることなく多様性を生み出すよう、両立をはかっていくことが必要になります。

ここに述べてきた諸課題への取り組みは理事会だけでなく、会員のみなさまのご理解と活動によって初めて実現します。これまで以上に積極的なご参加をお願い申し上げます。

2023 年 8 月 20 日

日本カリキュラム学会代表理事 松下 佳代

【臨時理事会 資料2】 理事会（各委員会）、事務局体制

○代表理事

松下佳代

○紀要編集委員会

澤田 稔（委員長）

石井英真（副委員長）

草原和博（副委員長）

黒田友紀

柴田好章

二宮衆一

根津朋実

森 久佳

○研究委員会

上地完治（委員長）

田村知子（副委員長）

奥村好美

小柳和喜雄

香川大学教育学部附属高松小学校

子安 潤

中野和光

樋口直宏

○広報・若手育成委員会

唐木清志（委員長）

西岡加名恵（副委員長）

石田有記

川口広美

川地亜弥子

高橋亜希子

村川雅弘

○国際交流委員会

倉本哲男（委員長）

吉田成章（副委員長）

上野正道

藤本和久

的場正美

○学会賞委員会

磯田文雄（委員長）

木原俊行（副委員長）

金馬国晴

○事務局

竹川慎哉（理事・事務局長）

富士原紀絵（理事・幹事）

次橋秀樹（幹事）

○監査

緩利 誠

北田佳子

---

---

## 「秋のセミナー2023」オンライン（公開）のお知らせ

---

---

### カリキュラム・マネジメントで何が変わるのか

#### 【企画趣旨】

現行学習指導要領において、カリキュラム・マネジメントによる教育活動の質向上が求められてから3～4年が経過した。その間、新型コロナウイルス感染拡大や GIGA スクール構想対応において、カリキュラム・マネジメントの考え方が有効に機能した学校は少なくない。今後、次期学習指導要領改訂に向けた議論も見込まれる中、改めて、カリキュラム・マネジメントの導入・実施によって、学校現場の何かどう変わったのか、文部科学省は実施状況や成果を踏まえて、今後どう取り組もうと考えているか。文部科学省担当官、カリキュラム・マネジメント推進校校長、カリキュラム・マネジメント推進校の調査研究者の3者による報告を踏まえ、成果と課題の現状について確認・協議を行いたい。活発な情報交換と議論を通して、学校現場のカリキュラム・マネジメントの充実に資するセミナーとしたい。現場の管理職、教職員、指導主事等の参加を期待している。

【主催】日本カリキュラム学会（担当：広報・若手育成委員会）

【日程】2023年11月23日（木・祝）13:30～16:30（予定）

#### 【登壇者】（五十音順）

石田有記氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室長）

カリキュラム・マネジメントの取組状況とさらなる充実のための今度の施策

工藤真弘氏（能代市立能代第二中学校長）

カリキュラム・マネジメントの導入・推進による学校・教員・生徒の変容

吉富芳正氏（明星大学教育学部教授）

推進校調査等からみるカリキュラム・マネジメントへの取組による成果と課題

#### 【司会】

唐木清志（筑波大学）、村川雅弘（甲南女子大学）

#### 【コーディネーター・記録】

石田有記（文部科学省）、村川雅弘（甲南女子大学）

#### 【参加費、参加資格】

無料です。公開ですので、会員以外の参加も可能です。※ただし、録画・録音は禁止とします。

#### 【参加方法】

Zoomを使用します。詳細は学会HP（<http://jscs.b.la9.jp/index.html>）で、後日お伝えします。

#### 【問い合わせ先】

日本カリキュラム学会事務局（[jscsstaff@gmail.com](mailto:jscsstaff@gmail.com)）

※「秋のセミナー」は、日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、すべての学校教育関係者及び教職を目指す大学生・大学院生、報道機関関係者、研究者等に公開しています。オンライン開催となっておりますので、多数のご参加をお待ち申し上げます。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 会員現況報告（2023年7月3日時点）

■会員総数 699名（一般会員 616名、学生会員 77名、団体会員 6名）

※未納退会希望者・会員資格一時停止者 35名を含む。

（2022年度：706名、2021年度：712名、2020年度：714名）

【内訳】（入会者・退会者は2023年2月10日以降の報告）

新規入会者 : 34名

退会・強制退会者 : 52名

一時停止資格者 : 31名

連絡先不明者 : 4名

2023年度の新規入会者数は26名（一般14名、学生12名）

■会費納入率（2023年7月3日時点）

2022年度：完納602名 未納30名 計632名 95.2%（切り捨て）

※連絡先不明者4名含む、会員資格一時停止者35名除く。

### ■新規入会者（2022年11月8日～2023年6月23日）34名

|    | 入会年月日      | 氏名             | 所属          | 区分   | 推薦者  |
|----|------------|----------------|-------------|------|------|
| 1  | 2022/11/18 | 後小路 正人         | 所属非公開希望     | 正会員  | 事務局  |
| 2  | 2023/2/14  | 和井田 祐司         | 大阪暁光高等学校    | 正会員  | 事務局  |
| 3  | 2023/3/2   | 佐藤 博志          | 筑波大学        | 正会員  | 本所恵  |
| 4  | 2023/3/3   | 小野 まどか         | 植草学園大学      | 正会員  | 本所恵  |
| 5  | 2023/3/13  | 大井 藤花          | 所属非公開希望     | 正会員  | 事務局  |
| 6  | 2023/3/16  | 肖 瑤            | 京都大学大学院     | 学生会員 | 小柳亜季 |
| 7  | 2023/3/25  | 吉川 麻紘          | 所属非公開希望     | 学生会員 | 本所恵  |
| 8  | 2023/3/28  | 西野 倫世          | 大阪産業大学      | 正会員  | 本所恵  |
| 9  | 2023/4/6   | 南浦 涼介          | 広島大学大学院     | 正会員  | 事務局  |
| 10 | 2023/4/10  | 山田 将之          | 所属非公開希望     | 正会員  | 佐藤正寿 |
| 11 | 2023/4/11  | 松本 理敬          | 滋賀県立東大津高等学校 | 正会員  | 玉井慎也 |
| 12 | 2023/4/12  | 須藤 爽           | 筑波大学大学院     | 学生会員 | 本所恵  |
| 13 | 2023/4/13  | 平野 裕一          | 大阪工業大学      | 正会員  | 田村知子 |
| 14 | 2023/4/14  | 猪股 大輝          | 東京大学        | 学生会員 | 事務局  |
| 15 | 2023/4/14  | 藤井 浩史          | 花園大学        | 正会員  | 磯田文雄 |
| 16 | 2023/4/15  | Mungalu Arthur | 広島大学大学院     | 学生会員 | 事務局  |
| 17 | 2023/4/18  | 福田 晃           | 金沢大学大学院     | 学生会員 | 本所 恵 |

|    |           |        |               |      |      |
|----|-----------|--------|---------------|------|------|
| 18 | 2023/4/20 | 王 鶴橋   | 岡山大学          | 学生会員 | 事務局  |
| 19 | 2023/4/24 | 末廣 彩華  | 大阪教育大学附属池田小学校 | 学生会員 | 森本和寿 |
| 20 | 2023/4/25 | 長倉 守   | 岐阜大学大学院教育学研究科 | 正会員  | 事務局  |
| 21 | 2023/4/25 | 柴田 康弘  | 飯塚市教育委員会      | 正会員  | 事務局  |
| 22 | 2023/4/26 | 上田 苑加  | 福岡教育大学附属小倉中学校 | 正会員  | 事務局  |
| 23 | 2023/4/27 | 杉山 比呂之 | 専修大学附属高等学校    | 学生会員 | 事務局  |
| 24 | 2023/4/28 | 石堂 裕   | 兵庫県たつの市立龍野小学校 | 正会員  | 田村知子 |
| 25 | 2023/5/9  | 渡邊 竜平  | 所属非公開希望       | 正会員  | 玉井慎也 |
| 26 | 2023/5/10 | 林 海翔   | 愛媛大学大学院       | 学生会員 | 兵藤清一 |
| 27 | 2023/5/10 | 高松 尚平  | 所属非公開希望       | 正会員  | 玉井慎也 |
| 28 | 2023/5/19 | 金箱 亜希  | 愛知県立大学大学院     | 学生会員 | 大貫守  |
| 29 | 2023/6/1  | 近江 勉   | 北海道旭川農業高等学校   | 正会員  | 志賀聡  |
| 30 | 2023/6/5  | 馬場 大樹  | 千葉経済大学        | 正会員  | 事務局  |
| 31 | 2023/6/7  | 中端 紅南  | 筑波大学          | 学生会員 | 事務局  |
| 32 | 2023/6/7  | 澤田 百花  | 広島大学大学院       | 学生会員 | 事務局  |
| 33 | 2023/6/8  | 安部 拓輝  | 筑波大学          | 学生会員 | 事務局  |
| 34 | 2023/6/9  | 所 浩子   | 堺市立八田荘西小学校    | 正会員  | 田村知子 |

※入会年月日は、入会金の振り込みがあった日付になります。会員番号は入会申し込みが届いた日になります。上記の順番は会員番号順です。

### ■退会者（2022年11月8日～2023年6月23日）43名

|    | 退会日       | 会員名                       | 所属機関名     | 会員種別 |
|----|-----------|---------------------------|-----------|------|
| 1  | 2023/3/22 | 全国大学生生活協同組合<br>連合会 図書サービス | 所属非公開希望   | 定期購読 |
| 2  | 2023/3/29 | 竹石 聖子                     | 常葉学園短期大学  | 正会員  |
| 3  | 2023/3/31 | 安彦 忠彦                     |           | 正会員  |
| 4  | 2023/3/31 | 安藤 輝次                     | 関西大学      | 正会員  |
| 5  | 2023/3/31 | 池野 範男                     | 日本体育大学    | 正会員  |
| 6  | 2023/3/31 | 金本 良通                     | 日本体育大学    | 正会員  |
| 7  | 2023/3/31 | 橋川 喜美代                    | 関西福祉科学大学  | 正会員  |
| 8  | 2023/3/31 | 平田 昭雄                     | 東京学芸大学    | 正会員  |
| 9  | 2023/3/31 | 矢澤 雅                      | 名古屋学院大学   | 正会員  |
| 10 | 2023/3/31 | 高橋 佳生                     | 丸亀市立垂水小学校 | 正会員  |
| 11 | 2023/3/31 | 木村 博一                     | 広島大学大学院   | 正会員  |
| 12 | 2023/3/31 | 森田 香緒里                    | 宇都宮大学     | 正会員  |
| 13 | 2023/3/31 | 本多 佐保美                    | 千葉大学      | 正会員  |

|    |           |                   |                |      |
|----|-----------|-------------------|----------------|------|
| 14 | 2023/3/31 | 丸橋 静香             | 島根大学           | 正会員  |
| 15 | 2023/3/31 | 高柳 恭子             | 宇都宮共和大学        | 正会員  |
| 16 | 2023/3/31 | 増田 修治             | 白梅学園大学         | 正会員  |
| 17 | 2023/3/31 | 川越 有見子            | 盛岡大学           | 正会員  |
| 18 | 2023/3/31 | 仁科 光一             | 東京都豊島区立池袋第三小学校 | 正会員  |
| 19 | 2023/3/31 | 渡邊 優子             | 文教大学           | 正会員  |
| 20 | 2023/3/31 | 關 浩和              | 兵庫教育大学         | 正会員  |
| 21 | 2023/3/31 | 今村 聡子             | 文部科学省          | 正会員  |
| 22 | 2023/3/31 | 小柳 正司             | 島根県立大学         | 正会員  |
| 23 | 2023/3/31 | 橋本 京子             | 京都教育大学         | 正会員  |
| 24 | 2023/3/31 | 関内 偉一郎            | 筑波大学           | 正会員  |
| 25 | 2023/3/31 | 佐藤 環              | 茨城大学           | 正会員  |
| 26 | 2023/3/31 | 松田 雅代             | 所属非公開希望        | 学生会員 |
| 27 | 2023/3/31 | 下村 隆之             | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 28 | 2023/3/31 | 西村 猛              | 京都市立呉竹総合支援学校   | 正会員  |
| 29 | 2023/3/31 | 田邊 美沙紀            | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 30 | 2023/3/31 | 野村 和之             | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 31 | 2023/3/31 | 野網 学              | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 32 | 2023/4/4  | 伊澤 貞治             | 皐月学園皐月幼稚園      | 正会員  |
| 33 | 2023/4/4  | 浦崎 源次             | 群馬大学           | 正会員  |
| 34 | 2023/4/5  | 鶴岡 義彦             | 千葉大学           | 正会員  |
| 35 | 2023/4/7  | 太田 操              | 福島県立医科大学       | 正会員  |
| 36 | 2023/4/7  | 千田 直              | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 37 | 2023/4/11 | 木村 光男             | 常葉大学           | 正会員  |
| 38 | 2023/4/17 | 紺谷 遼太郎            | 所属非公開希望        | 正会員  |
| 39 | 2023/4/23 | 小花 浩文             | 大阪市立栄小学校       | 正会員  |
| 40 | 2023/4/25 | 森茂 岳雄             | 中央大学           | 正会員  |
| 41 | 2023/5/16 | 豊畷 啓司             | 福岡教育大学         | 正会員  |
| 42 | 2023/5/29 | 池野 正晴             | 和光大学           | 正会員  |
| 43 | 2023/5/30 | 福岡教育大学附属小倉<br>中学校 |                | 団体会員 |



## 2. 寄贈図書一覧 (2023年2月28日～2023年6月27日到着分)

| 著者名  | タイトル   | 出版社等           | 発行日       | 受領日       |
|--|--|----------------|-----------|-----------|
| 宇都宮明子、原田信之(編著)、Buff, Alex, Gautschi, Peter, Moisan, Sabrina、猫田英伸、二井正浩、Riedweg, Nicole、上杉 嘉見(著) | 歴史教師のビリーフに関する国際比較研究: 日本・スイス・カナダの三か国調査        | 風間書房           | 2023/2/28 | 2023/2/22 |
| 香川知晶、土井健司、加藤泰史、建石真公子、齊尾武郎、児玉真美、美馬達哉、姫野友紀子、川口有美子、鍾宜錚、柏崎郁子、田中美穂、梶田隆章(著)                          | 「人間の尊厳」とは: コロナ危機を経て                          | 公益財団法人日本学術協力財団 | 2023/1/30 | 2023/2/25 |
| 宮本勇一(著)  | フンボルトの陶冶理論と教育改革: 学問中心カリキュラムの再考               | 春風社            | 2023/2/27 | 2023/3/28 |
| 原田信之(著)  | ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント: 格差是正のフィードバックシステムの解明 | 風間書房           | 2023/3/25 | 2023/3/29 |
| 川地亜弥子、田中耕治(編著)   | 時代を拓いた教師たち III: 実践記録で紡ぐ戦前教育実践への扉             | 日本標準           | 2023/3/30 | 2023/3/29 |
| 大貫守(著)   | アメリカにおける科学教育カリキュラム論の変遷: 科学的探究から科学的実践への展開     | 日本標準           | 2023/3/30 | 2023/4/4  |
| 橘高佳恵(著)  | オープン・エデュケーションの本流: ノースダコタ・グループとその周辺           | 東信堂            | 2023/2/28 | 2023/4/6  |
| 本宮裕示郎(著)   | イギリスの自由教育論争: 教養をめぐる科学と文学の相克                  | 東信堂            | 2023/3/25 | 2023/4/12 |
| 西岡加名恵、大貫守(編著)  | 高等学校「探究的な学習」の評価: ポートフォリオ、検討会、ルーブリックの活用       | 学事出版           | 2023/3/31 | 2023/4/12 |
| ジョン・ハッティ、シャーリー・クラーク(著)、原田信之(監訳)、宇都宮明子、富士原紀絵、有馬実世、森久佳(訳)  | 教育の効果: フィードバック編                              | 法律文化社          | 2023/6/25 | 2023/6/27 |

### 3. 会計監査について

2023年5月16日に会計監査を行なった。2022年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により定例理事会や各種委員会活動、第33回大会、秋のセミナーがオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が減少したとの報告があった。また、2023年度からの業務委託先の変更に伴い、2023年5月頃に予定される紀要刊行費用の予算や理事・代表理事選挙の経費、業務委託先の変更費用については、2023年度の予算にて支出することが報告された。2022年度予算会計の状況としては、特に問題点や不明瞭な点はなかったが、繰越金が増加しているため、何らかの形で会員に還元する取り組みの必要性が提起された。

### 4. 令和5年度（2023年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2023年7月3日時点での2022年度会費の納入率は95.2%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度（2022年度）分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）ガリレオ・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円）

#### 【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内

TEL 03-5981-9824 FAX 03-5981-9852 ※電話受付 平日 11:00~16:00

E-mail : g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

#### 【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 竹川慎哉気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscsstaff@gmail.com

※ 2022年4月1日をもちまして、学会事務局のメールアドレスを変更いたしました。

#### 【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>